

Text/Atsushi TAMADA

What's DAYTONA HOUSE?

デイトナハウス×LDKの建築システムを構成するのが軽鉄製骨のLGSパネル。厚さ3mm〜4mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横横182cm、縦270cmの長方形に溶接して製作。デイトナハウスは、この基本の形を連結することで、住宅やガレージのみならず、別荘、店舗、賃貸住宅などの様々な建築を作っていく、全く新しい建築のカタチとなっています。バウダーコーティングが施されたその鉄骨の素材感と、力の伝達を受け持つ「プレート」が織りなり、インスタリアルで飽きの来ない空間のディストも特徴となっています。

www.daytona-house.com

LDK inc. 代表 玉田敦士

デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社LDK inc.建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。



1 自分の意思で自由に行動して、世界に在り様を身体感覚でインプットする「遊動性」と、落ち着いた精神の在り様を助産する「定住性」。これにプラスして食糧の自給。それらを併せ持った「地に足した在り様」は住居形態を、背骨を支え、質を貫いて使っていく。それと田んぼが GLB である。

2 ガラコウ村から田んぼは人間の四季の暮らしのやりや、稲稈の成長と農作業を結びつけて見えます。そこには単なる「風景」ではなく、生活の想像があるので、③農業者と農村コミュニティとして、無事やり取りを早期に成し遂げに日本が、「二周目」に暮らせるべきことは、地に足の着いた生活です。その時の風景の意味は日本を想像できる（な）とも言い切れないイメージになるのです。



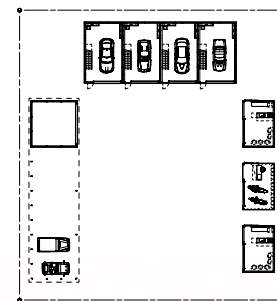
デイトナが提案する 新しい建築のカタチ

DHXL
DAYTONA HOUSE x LDK

日本が経済成長に過度な期待を持たなくなる時、自分の足元について再び大切にする時代が来るかもしれません。
“遊動性”と“定住性”、そして食糧の“自給生産”。それらがバランスよく調和した社会と新しい住居のイメージについて考えてみました。

FLOOR PLAN

プランは現段階では至ってシンプルです。しかし実際は、農業に必要な機能やコミュニティの成立に必要な機能を最小限で効果高く設定していく必要があります。賃貸形式での農業付き住宅が、のびのび発展するためには、農地転用など、農業関係の法整備も含めた諸条件が必要になるかもしれませんね。



実は最近、私は神奈川県小田原市の田んぼでの米づくり体験に参加を始めました。自分たち日本人の毎日の主食である“米”を生み出してくれる大切な“基盤”であるにも関わらず、都会の流通に身を委ねた生活の中では、なかなか田んぼのことが実感できないでいたからです。それでも田植え体験の時などは、裸足で泥の中に立って身がかめると、新しい自分に出会ったような新鮮な驚きと感動があります。私が田んぼの中で身体感覚を伴って感じたこと、それは、20世紀後半のニッポンは、工業化、都市化、過疎化、いろんな社会の変化にかまけて、田んぼを蔑ろにしてきたのではないかと。ということ、そして日本人は、いつしか経済成長していればすべて解決すると考えるようになってしまったのではないかと。という疑念です。

しかし、「成長の限界」が世界的な共通認識となりつつある今、田んぼの持つ潜在的なすばらしさを、再び生活の一部にしたいと考える人も増えています。各地で一般参加の田植えや稲刈りも盛んに企画され始めています。ただ単に風景として田んぼを見るのではなく、自分の主食である米を育ててくれる自分たちの基盤として改めて認識すること。土の力を感じるなど、田んぼは様々なことを教えてくれるのです。

“地に足をつける”とは自分の存在根拠をしっかり把握していることなのだとすれば、そろそろ田んぼとワンセットになった賃貸住宅ができていいのではないかと、これも田んぼの中で考えました。我々日本人の存在根拠としての米づくりをコンセプトにした賃貸住宅。というのが今回のプランの発想です。とは言え従来日本の農業は、土地に縛

り付けられるような特有のイメージがあったことも確かです。江戸時代以前の「土農工商」という階級制度の流動性のなさも、マイナスのイメージに加担しているかもしれません。先祖伝来の田畑というイメージもいかにも不自由な感じがします。でも賃貸住宅で米作りをしてしまう自由は、むしろ今までにはない新しく、清々しいイメージではないでしょうか。「遊動民」的の米作りです。しかもガレージ付きの賃貸住居 GLB ですから、この住居は、むしろクルマやバイクで自由に動き回るための「出撃基地」でもあるのです。

“軽やかな遊動性”と“落ち着いた定住性”の合一がそこでは実現します。それは21世紀型ともいえる新しいライフスタイルかもしれません。よく考えてみると都市での生活は、仕事のためだったり、たまたまそこに住んでいるというだけで、必然性はない“取り換え可能”なイメージがあります。誰でもない存在になること。むしろ都会生活の気楽さはそこにあるとも言えるのですが、捉えどころがなく時間が無為に過ぎていくような気がする時もあります。

でも住まいの隣にある田んぼで、田植えや稲刈りの時に限らず日常的に稲の成長を見守り、田おこし、田水を張る、草取り、水の管理などをこまめに行いながら米づくりに関わっていくことで、都会での、いつも何かに追い立てられるような時間感覚とは一味違う“意味のある時間の流れ”を取り戻すことができるかもしれません。そして地に足の着いた“定住性”が実感できた時、GLB特有の“自由な遊動性”の意味も、より広がりを持つ新しい境地になっていくような気がしています。



Text/Atsushi TAMADA

GOTENBA BASE

8月
OPEN

静岡県御殿場市 家賃：16万3000円

雄大な富士山を室内とガレージから望める“リゾート系賃貸ガレージハウス”が誕生。デイトナハウス標準のGLBでは、ガレージの入口及び玄関エントリーとファサードが逆に位置する特徴的な設計になっています。これは、居室からの富士山の美しい眺望がこの物件の最大のチャームポイントと考えたからなのです。



R-BASE

9月
OPEN

千葉県千葉市
家賃：12万8000円／
16万8000円／
1万6500円（バイクガレージ）

「R-BASE」があるのは蘇我ICからほど近い千葉市郊外。東関東、千葉東金道路も利用しやすく、千葉の外房、内房へアクセスも大変良い立地です。もちろん人居住用としても十分な環境ですが、キャンプ、フィッシング、サーフィン、ゴルフなどいわゆる“千葉レジャー”の玄関口的なセカンドハウス利用としても適しています。



G-HANGAR II

10月
OPEN

千葉県千葉市
家賃：18万5000円／22万5000円／29万5000円

GLBの中でも特に人気を博す千葉市中心部「G-HANGAR 1821」。その第2弾「G-HANGAR II」がいよいよ賃貸募集開始です。今回は、すべて3F建ての設定が最大の特徴。インナーガレージ以外にもそれぞれ駐車スペースを確保。クルマ・バイク好きに取ってはかなり嬉しい話ですね。



須走1期

11月
OPEN

静岡県小山町 家賃：未定

富士スピードウェイなどのモーターライフ拠点も意識した、須走のリゾート系GLBも完成までもう少しです。長く広がる富士の裾野をそのまま一望できる窓外の風景は、その都度リフレッシュを与えてくれる日本有数の開放感です。都心との適度な距離感は、“仕事”と“遊び”の垣根を取り払い、“生活”の新しいカタチを提示してくれることでしょう。

詳細&入居希望は
コチラから！



K-BLOC HARINAKANO

9月
OPEN

大阪府大阪市東住吉区
家賃：22万円



大阪都心への良好なアクセス圏、針中野という立地にありながら“高架下の秘密基地”のような個人スペース感。1棟1戸の戸建てガレージハウス、それが関西の私鉄大手、近鉄×デイトナハウスのコラボ企画第2弾です。従来の高架下のイメージを超越した、新しいタイプの“鉄道と住生活の接点”を模索。それは既存の鉄道インフラとモーターライフの融合とも呼べる21世紀型の発想です。



Emi Base KOTESASHI

埼玉県所沢市 家賃：未定

デイトナハウス×鉄道会社のコラボレーション企画は関東でも始まっています。(株)西武リアルティソリューションズとの企画で、西武鉄道沿線の遊休地を活用した「エミベース 小手指」です。全5戸のガレージハウスと全5戸のバイクガレージ棟で構成された、埼玉県初となるモーターライフご用達の賃貸物件です。



GLB AQUQ-KISARAZU

千葉県木更津市
家賃：17万円／18万5000円／24万円／25万5000円



アクアラインで都心からの距離もグッと短縮されたに房総の人気スポットで、今や二拠点生活のメッカの感がある千葉県木更津の金田西エリア。その好位置に完成予定の大型GLB。大小2棟が向い合せて、標準タイプの2×4スパンと、ゆったりタイプの3×4スパンタイプから選べる仕様。機動性を駆使したアクティブな生活に最適な物件です。



11月
OPEN

GLB R04

岩手県盛岡市
家賃：12万5000円／
15万5000円

みちのく岩手県はGLBがすでに根付いているともいえる場所です。間取りは2×4スパン6戸と3×4のワイドスパン2戸（角住戸）の全8戸の典型的な大型GLB。立地は盛岡駅からクルマで20分の西見前エリアにあり、旧市街の古い町並みの続く国道4号線から見える落ち着いた風情のGLBです。



4月
OPEN



GLB向山

宮城県仙台市 家賃：12万円／13万円／16万円／19万円

仙台市内を見下ろす高台に完成したばかりの「GLB向山」。山の上に至る細道を抜けて、ぱっと開けた場所にこの基地があるのです。これはバットマンと同じワクワク感。ロフト付きGLB 2棟と、ミッドセンチュリーデザインのフラットハウスで敷地を三方から取り囲む構成。GLBも2タイプのバリエーションから選択できます。間口2スパン（1.8m×2）の標準タイプと、間口2.5スパン（1.8m×2.5）の広々タイプです。ソーラーパネルを備えガレージ内にはEV充電コンセントも完備。また大型犬も飼育可能です。



7月
OPEN

mitG-Haus SOUFUKE

千葉県印西市
家賃：14万5000円
15万8000円

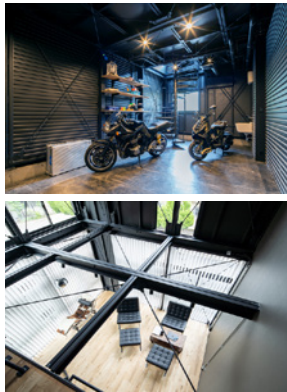
2×4スパン6戸と、3×3スパン4戸の2タイプの賃貸ガレージハウスGLBが向かい合う、「mitG-Haus SOUFUKE（ミットゲーハウス・草深）」が、現在人気急上昇中の千葉県印西市に誕生しました。印西牧の原駅まで徒歩15分、東京へ約1時間で出られる通勤可能な立地。さらに、外房や筑波山、都心方面など全方位に行きやすいため、ツーリングやアクティビティの最前線基地としても最適です。



全国でGLBがいよいよ増殖中

鉄骨構造体を露出させたインダストリアル感満点の賃貸ガレージハウス「GLB」が全国に続々と増殖し始めました。また、その内容も都市型、リゾート型、郊外型、高架下型、高級レジデンス仕様など、いろいろなニーズを吸収して進化を遂げています。まさにGLB第2繁殖期ともいえる状況をご紹介します。

HAKONE YUMOTO BASE



5月
OPEN

神奈川県箱根町

家賃：10万円／12万5000円／13万5000円

“箱根湯元”という地名を聞いただけで、関東の人であれば、暖かくて気持ちの良い温泉の体感が蘇ってくるような場所です。ここに完成したGLBは典型的な“リゾート型GLB”です。つまり居住用を前提としない賃貸ということですが、テレワーク全盛のこの時代、使い勝手は様々で二拠点生活を想定した賃貸募集になっています。温泉の繁華街から清流なる“早川”を橋で渡って、トンネルを抜けると、そこには急に静かな“本来の箱根”が現れます。トンネルの先に立地するこのGLBにはまさに“秘密基地”という呼び名もふさわしいのです。



東京都世田谷区

家賃：54万5000円／59万5000円

東京は世田谷区の高級住宅街に、待望のGLBハイグレードバージョンが完成しました。全戸数は2戸。間口を十分にとったガレージは、スバルタンマシンも無理なく入庫できるように配慮しています。ガレージ横には9.6畳相当のホビールームも完備。都会派の趣味人ご用達の仕様となっています。部屋を細かく区切らないその間取りは、インテリア配置の自由度も高くなり、余裕のあるライフスタイルを楽しむことができます。GLBの都市型バージョンは完成度高く、クルマ好き、バイク好きの活力を更に掻き立てる住居に仕上がっています。

OKUSAWA GLB Urban

7月
OPEN

